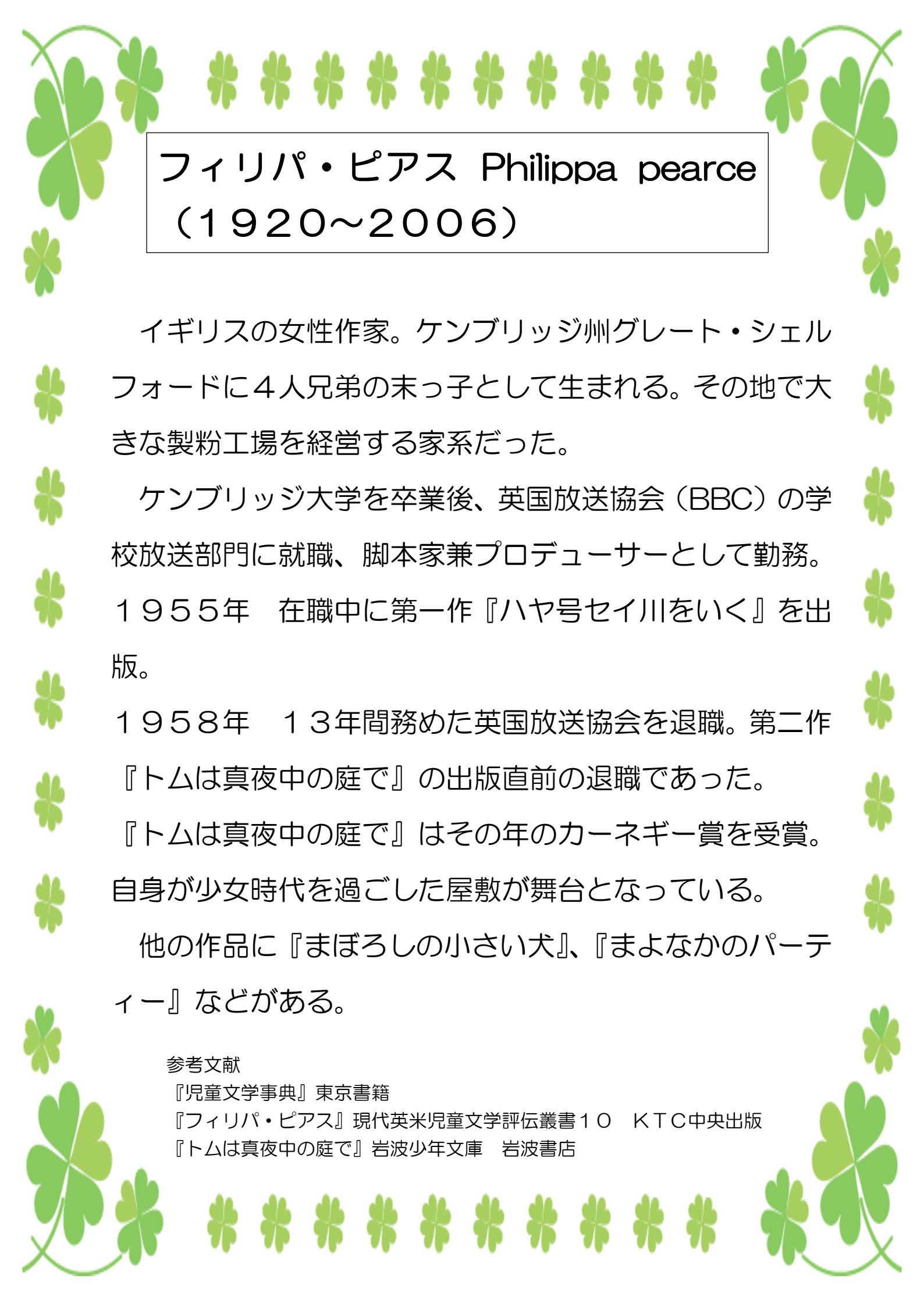


# フィリパ・ピアスとローズマリ・サトクリフ 生誕100年

児童室では、2020年に生誕100年を迎える2人の作品を  
展示しています。

ぜひ、ごらん下さい！





フィリパ・ピアス Philippa pearce  
(1920~2006)

イギリスの女性作家。ケンブリッジ州グレート・シェルフォードに4人兄弟の末っ子として生まれる。その地で大きな製粉工場を経営する家系だった。

ケンブリッジ大学を卒業後、英国放送協会（BBC）の学校放送部門に就職、脚本家兼プロデューサーとして勤務。

1955年 在職中に第一作『ハヤ号セイ川をいく』を出版。

1958年 13年間務めた英国放送協会を退職。第二作『トムは真夜中の庭で』の出版直前の退職であった。

『トムは真夜中の庭で』はその年のカーネギー賞を受賞。自身が少女時代を過ごした屋敷が舞台となっている。

他の作品に『まぼろしの小さい犬』、『まよなかのパーティー』などがある。

参考文献

『児童文学事典』東京書籍

『フィリパ・ピアス』現代英米児童文学評伝叢書10 KTC中央出版

『トムは真夜中の庭で』岩波少年文庫 岩波書店



ローズマリ・サトクリフ Rosemary Sutcliff  
(1920~1992)

イギリスの女性作家。海軍軍人の娘として生まれる。2歳の時の病気がもとで歩行困難になり、車いすでの生活を余儀なくされる。14歳で美術学校に入り細密画を学ぶが、1950年ごろから小説を発表、作家に転じる。

『第九軍団のワシ』、『銀の枝』、『ともしびをかかげて』のローマ・ブリテン三部作で歴史小説家としての地位を確立。  
(のちに4作目となる『辺境のオオカミ』が出版される)

1959年に『ともしびをかかげて』でカーネギー賞受賞。  
他の作品に『太陽の戦士』、『運命の騎士』など。  
自叙伝に『思い出の青い丘』がある。

参考文献

『児童文学事典』東京書籍

『ともしびをかかげて』岩波少年文庫 岩波書店